

教育課程とカリキュラム

愛知教育大学は、広域の拠点的作用をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。この使命を達成し、ディプロマ・ポリシーに基づいた学生を育成するために、全課程の学生が受講する「共通教育科目」と、学校教員養成課程・教育支援専門職養成課程それぞれで学びを深める「専門教育科目」で教育課程を編成・実施しています。

全課程の学生が受講する科目です

共通教育科目

- 教養科目
- 外国語科目
- 日本国憲法
- スポーツ科目
- 情報教育入門
- があります。

教養科目の科目群	基礎 教養科目	<p>初年次演習、キャリアデザイン科目 多様な学修歴を有する入学者に対応できるように、大学生活や社会に出る準備段階としての学修意欲を高め、学習規律を身に付けます。</p> <p>課題探究科目 (市民リテラシー/多文化リテラシー/科学リテラシー/ものづくりリテラシー) 学校現場で求められている「課題を発見する力」「情報を読み取る力」「複眼的に物事をとらえる力」「他者と協働する力」「解決に導く力」等の主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力を育成します。</p>
	教育実践 教養科目	<p>教職教養科目 (教職論/教育原論/特別支援教育基礎/発達障害のある児童生徒理解基礎) 教育実践を支える職業人の役割について考えるとともに、新しい持続可能な社会に向けた、ユニバーサルデザインの学校教育の基盤について、多面的に捉えて理解します。</p> <p>現代的教育課題対応科目 (ジェンダー・セクシュアリティと教育/外国人児童生徒支援教育/情報の活用と管理/学校保健・学校安全) 学校現場で対応の要望が高まる外国人児童生徒支援教育、学校安全等を題材に、新しい教育の機会均等やマネジメントの在り方について探ります。</p>
	実践力育成科目	

実践力育成科目は、子どもの生活実態を知り、子どもとのコミュニケーション能力を養い、感性を磨くなど、教育実践を支えるための実践力を高めることを目的としています。1年次は、居住地の小中学校等を訪問して体験的に児童生徒の学びや学校生活に触れる「学校体験活動入門」を行い、2年次は、教育施設等にて、教育活動の補助を週1回のペースで実践する「学校体験活動Ⅰ」があります。3・4年次は、「学校体験活動Ⅱ」、「地域協働教育体験活動」の2科目から1科目を選択し履修します。



先輩 Voice



学校教員養成課程
義務教育専攻 英語専修 4年
名古屋市立桜台高等学校出身

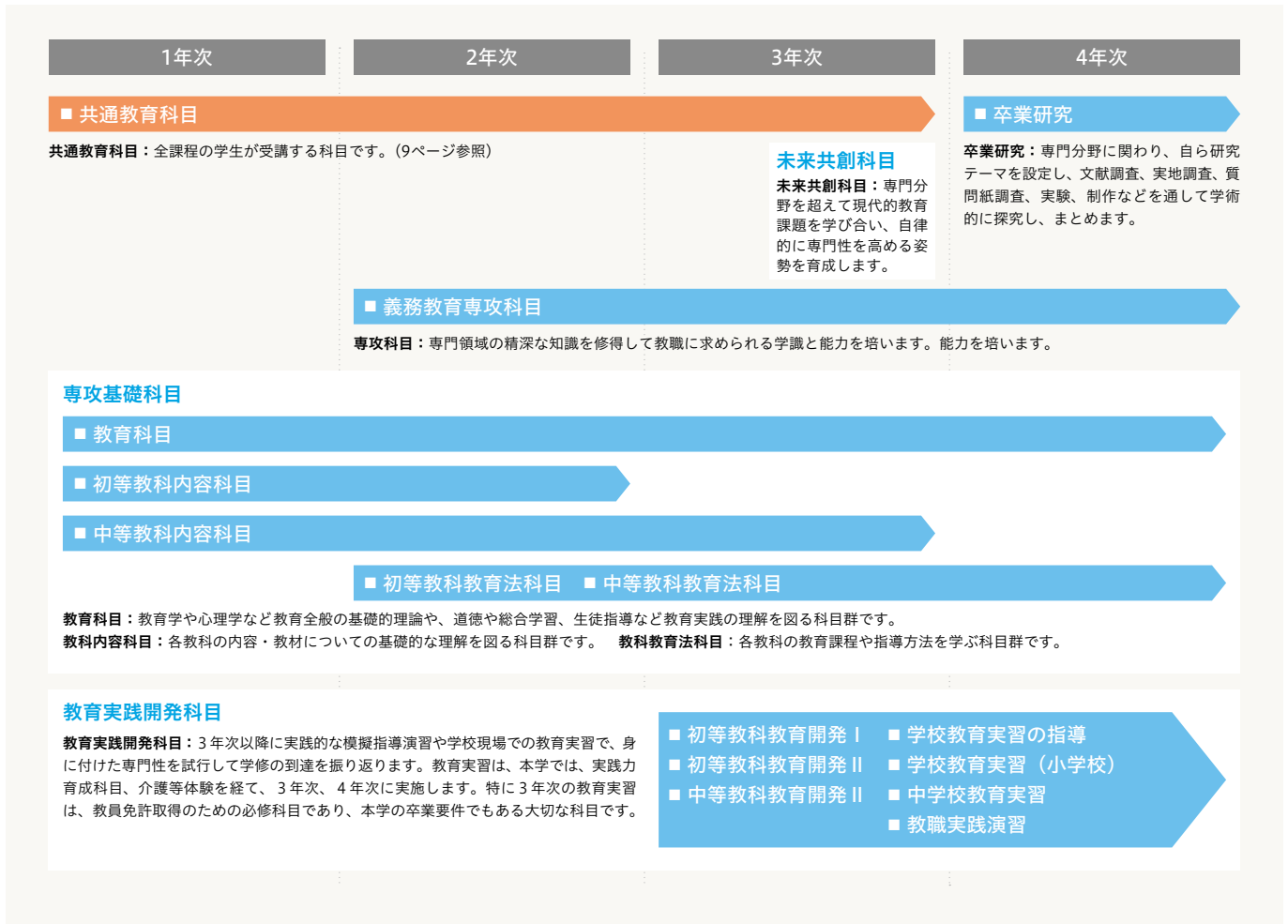
子どもたちと向き合う中で感じた教員のやりがい

授業の観察や困っている子どもたちの補助、朝の挨拶や休み時間の鬼ごっこなど、子どもたちとたくさん関わることができました。最初は子どもたちへの声掛けに苦労し、「今は先生の話に聞こうね」と伝えてもなかなか聞いてもらえず、どうしたら伝わるか試行錯誤の日々でした。それでも、「あれなんだろう」と興味を引いたり、「〇〇できるかな?」と挑戦を促したり、工夫を重ねることで少しずつ子どもたちと心が通じ合うようになりました。最終日にクラス全員から手紙をもらい、「先生と鬼ごっこが出来て楽しかった」「算数を教えてくれてありがと」と書かれていたことは、頑張った良かったと心から思える瞬間でした。うまくいかないこともありますが、しっかり向き合えば子どもたちから返ってくるものがあり、教員はとてもやりがいのある仕事だと実感しました。

学校教員養成課程 4年間の学び

義務教育専攻教科指導系10専修における履修例

- 共通教育科目
- 専門教育科目



教育実習、介護等体験

学校教員養成課程では、教員免許取得のため、1・2年次に「介護等体験」を、3・4年次に「教育実習」を行います。



■ 介護等体験 | 1・2年次 小・中学校の教員免許取得に必須

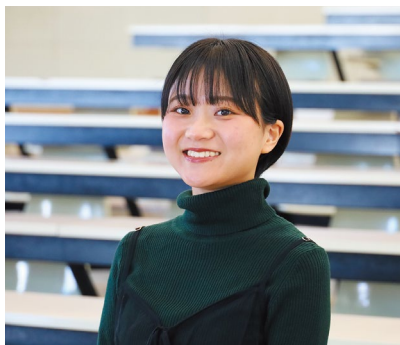
体験的学修として小学校および中学校の教育職員免許状（教員免許）を取得しようとする者が必ず履修しなければならないものです。一般的な介護等体験の内容は、障害者、高齢者等に対する直接的な特別支援、介護、介助だけでなく、話し相手、散歩の付き添い、行事の補助などの交流等の体験など幅広い活動が予定されています。体験内容はそれぞれの学校、施設等で異なります。

■ 学校教育実習 | 3年次 必修

卒業要件として履修が必須の教育実習です。「学校教育実習」では、実習態度や、幼児・児童・生徒の理解と指導、学級・保健室経営や保育活動、道徳指導について特に重視をした実習を行います。

■ 学校種別実習 | 4年次 選択 ※ただし、特別支援教育専攻学生は必須

学校教育実習とは別の校種の教育実習です。学校教育実習での経験を生かしつつ、さらに学生が専攻する専門性に則った学習指導の個人立案や、自己課題の解決活動について特に重視をした実習を行います。



学校教員養成課程
義務教育専攻 日本語支援専修 4年
愛知県立江南高等学校出身

子どもたちと共に成長し、責任を実感した教育実習

教育実習では、授業の観察や実習、運動会の練習や稲刈りなど、さまざまな体験を通して子どもたちと深く関わることができました。休み時間には一緒に鬼ごっこをしたり図書館で過ごしたり、子どもたちの笑顔に元気をもらいました。

実習中は授業の進め方や声掛けに悩むことも多く、うまくいかない時は担当教員の方に相談しながら工夫を重ねました。特に「子どもを見捨てないようにしないといけない」という先生の言葉が心に残り、教員の言動が子どもたちに与える影響の大きさと責任を強く感じました。

実習を終えて、教員は子どもたちの成長を間近で見守れる素敵な仕事であると同時に、大きな責任を伴う職業だと実感しました。これからも子どもたちと共に学び、成長できる教員を目指したいです。



学校教員養成課程
義務教育専攻 保健体育専修 4年
愛知県立刈谷北高等学校出身

小さな積み重ねが信頼を育てる教師への一歩

教育実習では、授業づくりや子どもとの関係づくり、学校全体での活動など、毎日が学びの連続でした。私が大切にしていたのは「学級の子ども全員と毎日話すこと」。朝の会や休み時間、授業中など、さまざまな場面で声をかけ、目線を合わせて話を聞くことを心がけました。最初は反応が薄かった子どもたちも、次第に自分から話しかけてくれるようになり、日々の小さな変化が信頼関係につながることを実感しました。また、毎朝黒板にメッセージを書くことを続けたことで、子どもたちとの距離も縮まりました。

実習を通して、教師自身が学び続ける姿勢の大切さや、努力の積み重ねが子どもたちに安心感を与え、信頼を育てる土台になることを学びました。これからも子どもたちと向き合い、共に成長できる教師を目指して努力を続けていきたいです。



学校教員養成課程
高等学校教育専攻 教科学習開発系理科専修 4年
静岡県立掛川西高等学校出身

期待と不安の入り混じった実習で実感した教員のやりがい

教育実習が始まる前は、「3週間の実習を最後までやりきれぬのか」「生徒たちに学びがある授業を作っていけるのか」といった不安と、「今までの大学生活の中でも最も長い時間生徒と関わることができる」という期待が入り混じった気持ちでした。

実習では理科や道徳の授業を担当し、子どもたちが自由に意見を出し合い、班ごとに課題解決に取り組む姿に感動しました。授業づくりでは教材研究に最も苦勞し、指導教員の助言を受けながら何度も工夫を重ねました。担任の先生から「子どもを大切にできる先生」と言ってくれたことは大きな励みです。

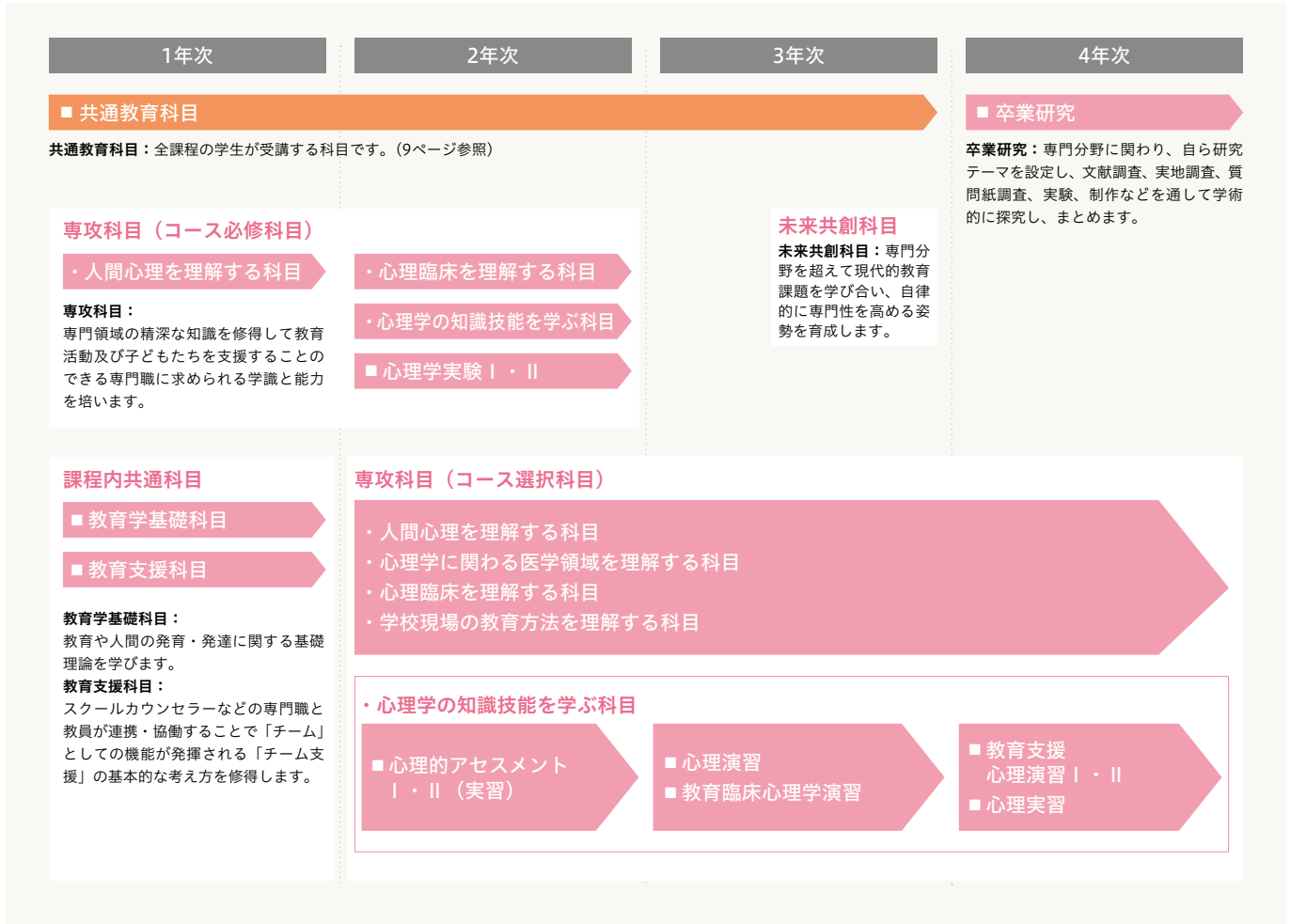
実習を通して教員の仕事の難しさややりがいを強く感じ、これからも学び続けていこうと心に決めました。子どもたちに学びある授業を届けられる教員を目指して努力を続けていきたいです。

教育支援専門職養成課程 4年間の学び

心理コースの履修例

■ 共通教育科目

■ 専門教育科目

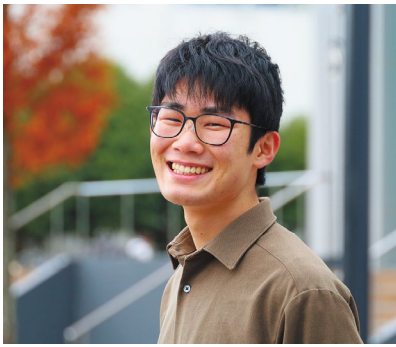


心理実習、福祉実習、学校・自治体インターンシップ等

教育支援専門職養成課程では、主に3年次に「心理実習」、「福祉実習」、「学校・自治体インターンシップ」等の実習科目を開設しています。これらの実習は卒業要件ではありませんが、「心理実習」は公認心理師、「社会福祉実習」は社会福祉士試験の受験資格取得のために必要となる科目です。

教育支援専門職養成課程で目指せる資格、取得できる資格については15ページ参照

コース	主な学外実習科目	実習時期	実習の概要
心理コース	心理実習	4年次集中通年	保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の5領域における見学等の実習を行います。この実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携および地域連携、③職業倫理および法的義務についての概要と実際を理解することを目標としています。
福祉コース	社会福祉実習Ⅰ	2年次後期	それまで学んだ社会福祉に関する知見を、児童、障害、高齢領域などの現場での実習を通して理解を深めます。ソーシャルワークが必要とされる現場の理解、ソーシャルワークの知識・技術を実習から理解します。さらに、教育現場でのスクールソーシャルワーク実習も行います。
	社会福祉実習Ⅱ	3年次前期	
	スクールソーシャルワーク実習	4年次後期	
教育ガバナンスコース	学校・自治体インターンシップ	3年次前期	学校・自治体等において、教育行政や学校事務のマネジメントや職務の遂行に関わる体験を通して、大学でのキャリア教育・専門教育を推進するとともに、大学での教育研究・学修と学校・自治体での体験を結び付けることを目標としています。



教育支援専門職養成課程
心理コース3年
愛知県立岡崎高等学校出身

「いること」の大切さと多職種連携の現場で学んだこと

実習が始まる前は、将来働くかもしれない現場を実際に見られることへの期待と、患者様や利用者の方々に受け入れてもらえるかという不安、現場の繊細さへの緊張感が入り混じっていました。精神科病院でのデイケア体験では、会話を多くしようと意識していましたが、心理職の先生から「何もしない“いること”も大切」と教わり、ただそばにいて相手に安心感を与えられることを学びました。実際に「いること」で患者様の様子を落ち着いて見守ることができ、距離感を測る大切さも実感しました。また、どの施設でも心理職だけでなく多くの職種の方が熱い思いで支援に携わっている姿に触れ、自分も知識や経験を積み重ねていきたいと強く感じました。多職種連携の重要性や、相手の立場を理解することの大切さを学べた実習でした。



教育支援専門職養成課程
福祉コース4年
長野県松本県ヶ丘高等学校出身

多職種連携と地域支援の現場で学んだソーシャルワーカーの役割

社会福祉協議会での180時間にわたる長期実習は、多くの学びへの期待と、職員や地域住民の方々とうまくかわれるかという不安が入り混じるスタートでした。地域の子育てサロンや福祉教育の現場では、住民同士のつながりや、当事者から直接学ぶ貴重な機会を得ました。

特に印象に残ったのは、多職種連携を考えるワークで、看護師とソーシャルワーカーの立場の違いから意見が対立する場面を体験したことです。専門職ごとに視点が異なり、必ずしも全員が納得できる結論に至るとは限りませんが、利用者にとって最善の判断をするために互いの意見を尊重し合うことの大切さを学びました。

実習を通して、地域の課題に向き合い、住民と協働できるソーシャルワーカーを目指したいという思いが強くなりました。



教育支援専門職養成課程
教育ガバナンスコース3年
愛知県立豊明高等学校出身

現場で実感した学校事務職員の魅力と広がる進路

実習前は、失礼なことをしてしまわないか、現場の雰囲気はどうかなど不安が大きかった一方で、小中学校の学校事務職員になりたいという思いから、どんな体験ができるのか楽しみでもありました。実習では、学校事務職員の職務やキャリアパスについての講義を受け、実際に小中学校を訪問して物品購入事務や学校間連携の様子を見学しました。特に、共同学校事務室や学校間連携の現場を自分の目で見て、「百聞は一見に如かず」という言葉の重みを実感しました。

インターンを通して、自治体ごとの違いを知り、志望先を広く調べて自分の目で確かめることの大切さを学びました。学校事務職員になりたいという気持ちはより強くなり、現場での経験が進路選択の大きなきっかけとなりました。